見　本

20XX年　○ 月 ○ 日

□□□□□病院
病院長　　□□　□□　殿
施設長　　□□　□□　殿
看護部長　□□　□□　殿

一般社団法人　日本消化器内視鏡学会
理事長　　田　中　信　治

貴院消化器内視鏡技師の待遇に関する要望書

拝啓　時下貴台には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

お陰様を持ちまして、当学会会員数も年々著増し、34,000名に達しております。
その背後には内視鏡検査、治療を介助する内視鏡メディカルスタッフの数もまた比例的に増加しているものと推察されます。また内視鏡それ自体も機能的に多岐化し、性能も益々高度化して参りました。これを駆使する医師に対して、練度の高い技術が要求されるのは当然のことでありますが、同時に周囲のメディカルスタッフに対しましても以前とは比較にならぬほど、高度の専門的な内視鏡の知識、技術の習得が要求されてまいりました。

そこで当学会では昭和57年より、消化器内視鏡メディカルスタッフに対して医学基礎知識ならびに内視鏡の専門的知識、技能の習得と向上を目的として毎年1回技師試験を行い経験、業績、学術、試験、面接などの結果、優れた方々に消化器内視鏡技師の資格を認定してまいりました。

その結果、現在に至るまでに既に28,130名の資格認定者を輩出し、内視鏡医学の発展向上を介して国民医療福祉に大きく貢献しております。

こうした事態をふまえ、当学会においては、指導医、専門医に対して内視鏡メディカルスタッフ育成を義務づけ、また全国規模の内視鏡メディカルスタッフ研究会を年2回開催し、全国各地において同地方会も随時行っております。これらにより、消化器内視鏡技師の養成に努力を続けております。

しかしながらこのような努力の結果ようやく獲得した資格や実力も周囲の条件によっては、これを維持することが難しい実情もあり、資格取得者の中には徐々にではありますが、次のような不満感もみうけられます。
すなわち
（1）せっかく、資格を取っても待遇上のメリットがない。
（2）知識、技能が生かされぬうちに、内視鏡と関係のない職場に配置転換させられる。
などという不満が主であります。

貴院にも当学会認定による消化器内視鏡技師

○○　○○氏

が勤務されておられます。

貴院におけるご都合もおありと存じますが、上記のような情状をご賢察の上、以上の問題点の善処について格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

本来ならば拝眉のうえ、折り入ってお願い申し上げるべき筋合いでございますが、略儀ながら先ずは書面でお願いする次第でございます。

敬具